

第3回ワークショップ実施報告書

ー 町の強み・弱みを考える(その2) ー

- 【開催日時】 2024年1月13日(土) 10:00 - 12:00
- 【開催場所】 市川三郷町役場大会議室
- 【参加人数】 16名
- 【配布資料】 10年後を描く住民ワークショップ<第3回>資料 (ppt)

【スケジュールと項目】

本日の予定	
10:00~	開会・挨拶
10:05~	本日の進め方の説明
10:15~	ワークショップ (WS) 市川三郷町の強み・弱みを考える 「医療・福祉」「商工業・農林業」 「地域づくり」
11:30~	WSからの発表
11:55~	閉会の挨拶

【ワークショップ】

第3回では、「医療・福祉」「商工業・農林業」「地域づくり」の3テーマについて、強みや弱みについて考え、さらに10年後に変わって欲しいことについてチームで話し合った結果を、最後にチームごとに発表していただきました。

本日の進め方

本日のテーマ

「医療・福祉」「商工業・農林業」
「地域づくり」

ステップ1

ステップ2

ステップ3

ステップ4

8

本日の進め方

ステップ1~3

模造紙作成のイメージ例(これにとらわれる必要はありません)

子育て・教育

小学生が安心して遊べる場所を増やしたい
こども食堂を増やしたい
子育ての孤立をなくしたい

観光・移住定住

移住者にとっての魅力・欠点
魅力ある(有名な)特産品・土産物を増やしたい
空家の活用を増やしたい
カフェを増やしたい

12

【主な発表内容】※主な提案に下線

《チーム1》

- 医療、福祉について、医療、福祉のサポートは、しっかりしているが、産婦人科がない。産婦人科がないと、子どもは増えづらいと考える。
- 農業については、農業を推進していくのであれば6次産業化を進めることが必要。また農地を宅地化にして、町に住んでもらう人を増やす。
- 地域づくりについて、電車を使って、県外等へアピールしたり、駅前朝市をする。また公民館を活用して、大人と子供のお互いの知識を交換する場など、世代間の関わりを公民館を使うことで作っていくことができれば良い。



《チーム2》

- 3テーマどのテーマについても皆さんがよくわからない。知らないといった問題がある。問題をどう改善していくかについて、交流の場を増やして横の繋がりによって、商工業や農林業のこと、高齢者や介護の現状などを知ることができる意見交換を行う場や企画を増やしていきたい。
- 実際に発信していても情報が上手く伝わっていないので、いかにうまく伝えていくか。そのために集まる場所が必要。
- 地域のひとと青洲高校の生徒さんで、色々関わり合いを持つことで、町外から通学している約7割の生徒が、「市川三郷町ってこんなところだよ」って広めてくれることが考えられる。しっかり情報を共有していかないといけない。みんなが「市川三郷町はこんな町」って言えるような、町にできたらいいなと思う。



《チーム3》

- 医療、福祉に関しては、少子化が進んでいること、民生委員が少ないことが弱みとなっている。強みとしては、高校生まで医療費が無料。健康増進につながる健康作りに関して、「六郷の里ニードスポーツセンター」がある。特産品である人参、和紙、花火、桑茶があったり、お祭りある。また大木地区で事業やっている方もいる。特産品と健康増進が上手くつながっていけばいい。
- 農業振興について、耕作放棄地が多かったり、後継者がいないので外に人が流れて人手不足が顕著に現れてる。
- 商工業、農林業の産業全体で、働き場所がなくなると人が減って、商店街も閉まり、人口が少ない人が住みにくい町になってしまう。
- 地域づくりについての強みとしては、市川三郷町の旧町に駅があるので、アクセスがしやすい。交通の便がいい。六郷インターまで高速道路が無料。山が多いので、うまく斜面が使えればよい。



《チーム4》

- 医療・福祉では、介護職員の人材不足であったり、人口減少によって診療所がなくなってしまうことが、不安や弱みに繋がっている。また県との連携があまりないと思う。
- 新しい情報を取り入れて、いろんな部分でスキルアップをしていかなければ、何も変わっていかない。町の中だけではなく、社協や県などの情報をしっかり共有しながら、スキルアップをしていくと、またいろんなアイデアであったり、いろんな新しいことが動き出すと思う。
- 全て繋がってくるが、地場産業の中でも新しい商品等が開発されたり、青洲高校の高校生のアイデアをもらいながら、新しいアイデアだったり、販路拡大だったりといったところで、広がっていくと良い。
- 地域づくりについては、いろんな人が活動してるが、人と人の繋がり、ご近所さんの顔が見えづらい、地区で集まる機会が少なくなっていることで情報が少ない。つながりや情報があれば災害が起きた時に、助け合いができる。
- 多様な人たちが集い、気軽に話し合いができる居場所作りっていうのが必要。SNSもあるが対面でも話せば、いろんな人たちが繋がると思う。



以上

【WS風景】

